

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名：南九州西回り自動車道 一般国道3号 出水阿久根道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 九州地方整備局
起終点：起点：鹿児島県出水市下知識 終点：鹿児島県阿久根市鶴川内	延長：14.9km	
事業概要：国道3号出水阿久根道路は、南九州西回り自動車道の一部を担う延長14.9kmの道路であり、新たな高規格幹線道路ネットワークの一部を形成し、広域交通及び地域間交通の需要に対処し、高速定時性の確保とともに、産業・文化・経済等の発展に寄与するものである。		
H9年度事業化		H17年度都市計画決定
H18年度用地着手		H19年度工事着手
全体事業費	約449億円	事業進捗率：23%
計画交通量	9,600～17,300台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	1.2
	(残事業)	1.8
総費用 (残事業/事業全体)	297/431億円	
総便益 (残事業/事業全体)	538/538億円	
基準年	平成22年	
（事業費：259/392億円）	（走行時間短縮便益：397/397億円）	
（維持管理費：39/39億円）	（走行経費減少便益：73/73億円）	
	（交通事故減少便益：68/68億円）	
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.3（交通量+10%） B/C=1.2（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.7（事業費+10%） B/C=2.0（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=1.7（事業期間+20%） B/C=1.9（事業期間-20%）		
事業の効果等 ① 地域間交流・連携の支援 ・主要地域間のアクセスが向上（阿久根市～出水市間：約10分短縮） ② 災害に強いネットワークの構築 ・緊急搬送ネットワークの確保（並行国道3号の通行止め時に迂回に伴う損失時間：約13分） ③ 物流効率化の支援 ・出水市～川内港（重要港湾）間の所要時間が短縮（約14分短縮） ・鮮度向上によりブランド水産物の市場価値向上が見込まれる（東町漁協（長島町）のブリ「鯨王」） ④ 救急医療活動の支援 ・救急医療施設へのアクセス性向上 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約2分短縮、約6,000人） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約11億円※】 ⑤ 観光による地域活性化 ・観光地へのアクセスが向上（八代IC～ツル観察センター：約2分短縮） ⑥ 交通渋滞の緩和 ・国道3号の交通混雑が緩和 ・国道3号の損失時間の削減（38.8万人時間/年⇒8.5万人時間/年） ・所要時間の信頼性の向上による便益【約3.6億円※】 ⑦ 交通安全性の向上 ・国道3号の死傷事故件数が減少（現況：約63件/年⇒ 供用後：約32件/年）		
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）		
関係する地方公共団体等の意見 出水市をはじめとする9市4町で構成される南九州西回り自動車道建設促進期成会（会長：出水市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年8月）		
県知事の意見： 当該道路は、南九州西部地域の経済の活性化や高速定時性の確保に大きく寄与するものであることから、引き続き事業の「継続」をお願いするとともに、早期完成に向け、所要の予算を確保されたい。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		

沿線地域唯一の幹線道路である国道3号の交通量は年々増加傾向にあり、依然として交通混雑が著しい区間が存在する。沿線地域における地域間通勤流動は増加しており、自動車保有台数は増加後、現在、横ばい状態にある。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約23%であり、そのうち用地進捗率は約55%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き用地買収及び工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

・当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約106億円】

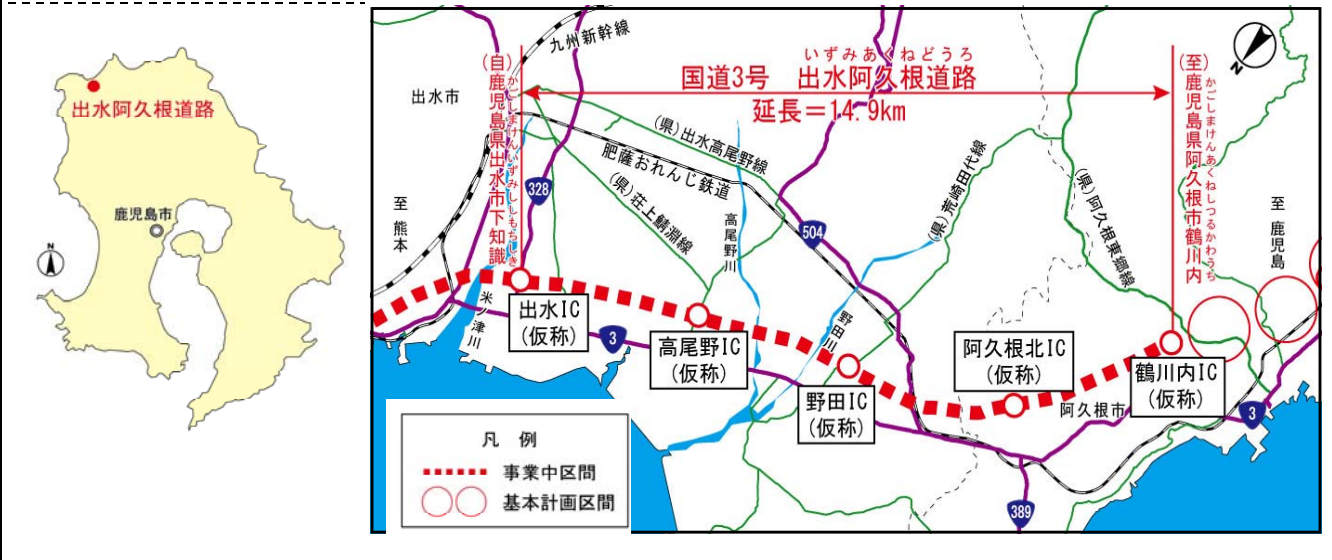
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。